

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和4年度 岩手県意見交換会（第2回）議事概要

令和4年10月12日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】 令和4年10月12日（水）10:30～12:30

【場 所】 シートピアなあと

【出席者】 （敬称略）

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

株式会社岩手銀行／国立大学法人 岩手大学／岩手県／特定非営利活動法人 いわて連携復興センター

＜今年度の意見交換会テーマに関連する団体（主団体）＞

一般社団法人 浄土日和

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班／復興庁 岩手復興局

＜事務局＞

株式会社 J T B

【議事概要】

1 開会

復興庁より、今回は実際に浄土ヶ浜、みちのく潮風トレイルを歩いていただいた後の意見交換会となるため、現場に来て感じられたことも含め、ざっくばらんに忌憚のない意見をいただきたい旨、挨拶した。

2 各団体の活動紹介

国立大学法人 岩手大学より、取組紹介資料（資料2-1～2-2）をもとに取組を紹介した。

3 令和4年度の実践の場企画案について

事務局より、資料1をもとに今年度の実践の場企画案について説明した。また、一般社団法人浄土日和より、エクスカーションプログラム骨子案について説明した。

4 意見交換

（1）目的の再確認／エクスカーションプログラム案に関する意見及び協力いただく団体

エクスカーションプログラム案については合意が得られたが、悪天候の場合の懸念が示されたため、事務局と主団体で代替案についても検討を進めることとした。

意見交換においては、岩手県で実施する意義のあるプログラムとするためには、地域の方がどのように関わっていくかが大事だという意見が得られた。また、プログラムを作って終わりではなく、次年度以降、プログラムをどのように活用していくかということについても継続的に考えていく必要があるのではないかという意見が挙げられた。

（主な意見）

- ・ 前はイメージするのが難しかったが、今回現場で見させていただいて内容が非常にイメージしや

すかった。内容は全く問題ないのではないかと思います。ただ、提案は3つともかなり気象に依存している内容かなと感じた。そこは課題としてあるのではないかな。

- ・天気が悪い場合、さっば船は厳しい。北海道のニュースがあつてから厳しくなっている。歩く方は、多少小雨でもイベントなどでは歩いている。歩けないほどの大雨になる場合は事前に天気予報でわかる。
- ・代替案を作成することはできる。トレッキングは入れた方がいいと思っている。船の方の代替案はビジターセンター内で何かの体験プログラムを開くなど、地元の体験ツアーをやっている方々と意見交換をして、時間や人数も考えてプログラムを作るようにしたい。田老の学ぶ防災は建物内でもできる。被災したホテル内に入って津波が来た高さを体験したりもできるので、大丈夫かと思う。
- ・エクスカージョンプログラムを作るという中期的なゴール感と、今回の実践の場で浄土日和さんのコンテンツをやることは良いと思う。ただ、もう1つ重要なことは、我々岩手県勢がこれをどう活用していくかということ。エクスカージョンプログラムを売り込むことが我々のゴールではないと思う。この機会を使っていろいろな方々と連携・協力しながら作っていく体制が岩手でできていくと思う。個人的には今回のようなコンテンツをもっと岩手や東北の人にも使ってほしいと思う。そういうところ狙っていききたい。
- ・継続的にやっていくことは大事ではないかと思う。この協議会の活動として毎年、年度末に来年度の協議会の活動方針を出していくので、その時に「今年度の取組を踏まえて、さらに岩手県のこういったところとも連携して進めていきたいと思います」というような方針まで決めていければ、来年度以降地域の取り組みとして続けていく体制が徐々にできていくのかなと思う。
- ・県の観光関係の部署の方に実践の場に来ていただいて、イメージを持っていただくことなどはできるのかなと思っている。
- ・国立大学の全国会議のエクスカージョンプログラムにコロナ前に参加したが、観光消費効果、情報発信効果、事後の誘客効果の3点はたしかにあるだろうと感じた。長野だったので小布施町に行って北斎ミュージアムを見学し、町長さんが来て大学との関わりや地域特性などをお話しされた。そうすると単純に観光だけではなく「小布施町ってこんなところだ」とインプットされ、その後テレビや報道で見かけるとなんだか見てしまう。人と会って生の話を聞いて、そのストーリーまで触れたので頭に入ったのかなと思う。たぶんそういうところが今回のエクスカージョンプログラムに入ると、岩手でやる意義というのが出てくる。また、地域の方がどのように入るかを考えることで、すごく岩手らしいものができるのかなと思った。
- ・岩手県の方で、ふるさと振興部が主管している沿岸13市町村の三陸推進協議会という会議がある。以前は宮古のフェリーターミナルをどう活用するか、観光をどうするかという話がこの会議であったと思う。今後の地域との連携という点では、こうした会議体に復興庁などから話をいれるとスムーズに行くのかなと思った。共通項として一番ヒットするような議題なのではないか。
- ・MICEのことやトレイルのコースのことを考えると、宮城県も関係する。「新しい東北」の宮城県との取組と横串を指すことについても検討すべきではないか。

(2) 実践の場（モニタリングツアー）にお招きする団体、ツアー後の意見交換の内容等

モニタリングツアーは「岩手県宮古市コース」とすることで合意を得た。招請する団体については、岩手県、盛岡市、観光協会、三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルの関連団体、三陸沿岸地域で活動するNPO団体などが挙げられており、事務局において招請する団体の数等を含めて検討することとした。推薦団体への声掛けは主団体・副代表団体の協力を仰ぎながら進めていくこととした。

意見交換においては、招請する団体は、こうした取組に積極的に参加したいという意向を持っているかどうかを重視して選定するのがよいという意見が挙げられた。

(主な意見)

- ・関係人口は広く海外もあれば県外もあるが、まず岩手県内の内陸と沿岸の部分も必要ではないか。仙台から直で三陸道路を使ってということもあるかと思うが、盛岡に1回来てから内陸移動というのも1つの手かなと思う。
- ・盛岡市でMICEに関わるような会場等にも可能であれば実践の場に参加いただければと思う。ただ、時期的に1月は内陸では雪が降り、アクセスが難しいかもしれない。今後プログラムをパッケージ化した時には内陸地域も巻き込むようなやり方も必要なのかなと思う。また、沿岸ルートで来た時にストロー化現象にならないよう、各地で下りられるような意図的な工夫も必要ではないかと思う。
- ・盛岡市にはコンベンションビューロー、観光協会があるので、エクスカーションプログラムがあることを知らせてはどうか。盛岡市近隣で学会等があった時にそこにつなげようかという話が二次的、三次的には出てくるかもしれない。
- ・盛岡市にも復興についての委員会がある。盛岡市も、内陸に避難している方の支援と沿岸部への支援という両方を行っており、上記のような話は盛岡市も関心があるのではないかと思う。実際に1回見てもらった方がいいのかなと思う。
- ・NPO文脈でいくと、トレイルをメインではないが活用したいとか活用している団体があるので、そういった団体に来てもらってもいいのかなと思う。例えば、ディスカバー・リアスさんというロゲイニングをやっている団体で、ロゲイニングの中にも潮風トレイルのコースが入っている。
- ・観光協会やDMOという話からいくと、宮古観光協会にも参加いただいてはどうか。
- ・ビジターセンターについては、構成団体が各沿岸市町村、観光協会などとほとんど一緒なので、重なる部分が多い。強いて言えば田野畑のビジターセンターや碓氷海岸のインフォメーションセンターなどトレイルに関する各エリアの団体を参加いただくことはあるかもしれない。
- ・かまいしDMCさんとも潮風トレイルの関係で繋がりがあがる。
- ・大学では、学会活動は大学としての取組ではなく、あくまでも研究者の取組になる。そういう意味では、学会の本部などに話をしておくことはあってもいいのかなと思う。次に岩手でやるのはどこだというのは学会のホームページを見ればわかる。
- ・地域の団体については、こういう機会を積極的に活用したいと思っているなら来てもらった方がいいが、付き合いだからしょうがないというならあまり押さなくてもいいように思う。
- ・名前が出てきたところではコンベンションビューロー、県の観光協会、盛岡市、ディスカバー・リアス、県の観光戦略室、宮古の観光協会、ジオパーク関連の団体など。ランドオペレーター、旅行会社も含め、事務局の方で仙台と盛岡のバランスを考えてご提案させていただきたいと思う。

(3) 目標達成に向けて副代表団体として支援・関与できることについて

今年度の実践の場や来年度以降の取組を見据えて支援・関与できることについて、各副代表団体より説明した。

(主な意見)

- ・今後は県の観光関係の部署も巻き込んでいきたいと思う。
- ・東北6県の地銀と観光の連携会議の中でプログラムの紹介はできるかと思う。また、ここ数年FINE+東北という団体のフォトコンテストをやっている。岩手の作品は過去3回、内陸や岩手山などに偏っていて、沿岸の写真が少ない。もっと沿岸の良いところを発信するような形に何らかのリンクができないかなと考えている。
- ・昨年の実践の場の取組団体にも声をかけてはどうか。この他にも声をかけてみて、今後のために自分たちも見てみたいとか積極的に来たいという方がいれば相談したいと思う。

- ・実践の場に学生の参加を募ることはできる。震災直後にボランティアをしたりして今も継続的に取り組んでいるサークルがある。先日も盛岡内陸の学生や岩手に縁もゆかりもない学生たちと釜石に行き、今の釜石を見てもらうツアーを自主的に実施した。そういった子たちに声をかけ、スケジュールが合えば入ってもらって学生の目線で意見を言ってもらうことも考えられる。

(4) 今後のスケジュールについて

実践の場を1月19～20日に行う等のスケジュール案について特段の意見は示されず、参加団体の合意が得られた。

5 閉会

実践の場の具体案については合意が得られたため、事務局と主団体において悪天候時の代替案等を含め詳細な検討を進めることとした。実践の場に招請する団体については複数の推薦を得られたため、事務局にて整理して検討を進めることとした。招請団体への声掛けは主団体・副代表団体の協力を得ながら進めることとした。